

平成 17 年 9 月 7 日

木 村 操

《協力雇用主となった経緯について》

当社の業務内容は土木建設会社への人材派遣を主としており、取引先としては大手ゼネコンの一次及び二次元請け会社（大成建設、大林組、清水建設、鹿島建設、P S 三菱建設）であり、その他 100 社位の常用下請けと契約し、日々現場作業員を補充しております。

現住職人として約 100 人位抱えてます。職種としては、鳶職、鍛冶工、建設機械のオペレーター及び一般土木作業員です。バブル崩壊後、建設業界はもとより、社会一般において雇用問題が取りざたされており、新聞広告及び更生保護施設千葉県帰性会ほか、紹介などによる人員募集をしています。

今、現在、私は皆様の前にて協力雇用主としてお話をしておりますが、私が以前勤めておりました職場も千葉県帰性会から働きに来ていました。その関係で私がか会社を設立した時から、千葉県帰性会の在所者を積極的に雇用しております。千葉県帰性会在所者の人達は仕事に不馴れな所もありますが、積極的に取り組んでいます。一人一人の力不足と言いますか、事情と言いますか、なかなか長続きしないのが現状です。

## 《協力雇用主の活動内容について》

千葉県帰性会在所者の中には、色々な事情を抱えている方ばかりで、特に職種に関して建設業界以外から飛び込んで来ている者が多く、果たして、今、私が雇用している人達とうまく溶け込み一緒にやっていけるか、という不安が一番先に脳裏を走ります。本人にとって一番大切なものは自分自身はもとより家族であると思います。立ち直るには何が必要か、本人にとって大切なことは、過去の事は一日も早く忘れ、今日、明日そして未来に向かい日々生活する糧を見つけ出すことと思います。私どもは千葉県帰性会の在り所者との面接のとき、家族及び妻子のことや本人に合った職場、職種を模索するため、以前の職業を聞き、明日から即仕事に携われる様にしております。本人との雇用契約をする時は、労働契約書及び労働条件通知書等を取り交わし、なおかつ説明して一日も早く仕事に慣れ、自分自身の生活を立て直し、家族や妻子に自分の所在地を連絡できる様に指導します。本人にとって何が大切か、まずは立ち直ること。自分の視点として積極的に雇用し、立ち直らせることが私の使命と考え、今現在に至っておるのが現状です。

## 《協力雇用主として苦勞していること》

千葉県帰性会の在り者達は全体的に個性が強い人達が多く、立ち直るきっかけは根本的には本人の気持ち次第だと思いますが、受け入れ側の態勢としては本人との会話が必要ではないでしょうか？私どもは本人達に私生活や仕事の面で行き詰まった時に色々な角度で社会人の先輩としてアドバイスをする様に心掛けています。

例えば50代の者に対し私どもは、今回の件は一日も早く忘れ、今日、明日と希望を持って働き、これからは第二の人生として悔いのない生活を送ると同時に、家族や妻子がある場合には半年に一回位でもいいから手紙や電話等で連絡する様に心掛けて下さいと指導しています。千葉県帰性会の在り者の状況は個人個人で大変異なり、特に職歴が異なるので、彼らの適正をよく知り、理解し、今までの経験を活かし、長所を伸ばせる様な現場配置をする様に心掛けております。

最後に、保護観察中の人達も20代から50代までそれぞれ私どもの宿舎に入居していますが、この人達にとって、保護司と協力雇用主との連携のあり方が非常に重要だと思います。

私どもは、就労する時点で労働契約書及び労働条件通知書を交わしており、その内容は本人の名前はもとより、連絡先として家族や妻子の住所、電話番号等を記入してもらっていますが、これからは保護司の方々との連携をもっと行い、特に当社で雇用している時の私生活における行動、態度、そして立ち直りの兆しなど、保護司の方々との間で意見書等の記録書類を作成し、保護観察終了後、当社から保護司の方々に書類を戻して保管して頂く様にさせていただければ幸いです。